

# 「夜間中学（中学校夜間学級）の現況とそこに学ぶ人たち」

The Present Situation at a Night Course of Junior High School and Students Learning There

植田 宜博

UEDA Yoshihiro

（附属教育実践総合センター特別研究員）

戦後まもなく、貧困のため昼間の中学校に行けない子どもを、宿直の教師などが、夜に宿直室に呼んで指導したところに端を発する夜間中学（中学校夜間学級）では、その当時学校へ行けていない人たちが高齢になり、次第に在籍者を減らしている。一方、日本人と結婚するなどして在留資格を取得して日本に暮らす、いわゆるニューカマーと呼ばれる外国籍の人たちが増えてきている。本稿は、そういう意味で、果たす役割が曲がり角にきていると言える夜間学級の現況とそこに学ぶ人たちについて、報告するとともに、夜間学級について考えるきっかけとしたい。

**キーワード：**中学校夜間学級、夜間中学、在日コリアン、ニューカマー、プロジェクトチーム案

## 1. 岸和田市立岸城中学校夜間学級の起源と歴史

岸城中学校夜間学級の成立は、学校沿革史によれば昭和28年4月岸城中学校補導学級として発足となっている（〈資料1〉参照）。しかし、実際にはそれより早く、〈資料2〉にあるように、夜間学級は昭和25年には大阪にすでに10校があったとされ、岸城中学校夜間学級もこの一つであったようだ。

昭和20年代には、貧困のため学校を休んで働かなければならない中学生を、教師が宿直の夜に、個別に宿直室に呼んだりして夜間に指導することは、我が国の経済事情の悪かった当時、極めてありふれた光景だったようだ。昭和25年には、府内の平均就学率95.7%に対し、岸和田市の平均就学率は86.9%とかなり低かったという記録がある。これは、戦前に紡績王国を誇った岸和田地方の経済事情が、戦後一変したことによって、不就学率が他より高かったという事情があったようだ。調べてみると、生産効率を向上させていった大手と比べ、岸和田にもたくさんあった中小の工場は、家族を動員してコストを下げたり、要員の交代を控えて長時間操業するなどして利益を上げる必要があったようで、年少者の労働の背景になったのかも知れない。

こういった事情もあって、行政管理庁（現在の総務省）が年少者の就労を後押ししかねないとの危惧から、夜間学級の早期廃止勧告を出し、近畿では当時あった60校の内、58校が廃止されたとされているが、岸城中学校以外は全て廃止され、ただ1校残ったとの話もある。

ちょうどこの頃、岸城中学校夜間補導学級では2名の生徒が卒業するとたまたま生徒数が0になることか

ら、昭和44年度より廃止されようとしていたが、東京の夜間学級OBの高野雅夫氏が中心となって大阪で運動を始め、その結果、昭和44年5月、府教委が府議会の同意を得て、岸和田市立岸城中学校夜間学級として正式認可、閉鎖寸前で存続が決まったということである。

## 2. 現況と課題

日々の日課や教育課程などは、〈資料4〉を見ていただくとして、現在認可されているのは4学級で、在籍数は〈資料4〉の通りであるが、実際は【コース別生徒数】にあるように5コース展開で授業をしている。これは、例えば同じ入学1年目でも学力の実態は様々であるため、国語の力、というよりは日本語の能力によってコース分けして授業を行うことが必要だからである。

在籍している生徒の国籍は現在8カ国、日本、韓国・朝鮮、中国、タイ、フィリピン、ペルー、ブラジル、パラグアイである。割合はおおむね日本国籍の方が半数、残りが外国籍、外国籍の方の内、約半数が中国籍の方で、中国籍の方が増える傾向にある。

かつては、夜間学級に在籍する外国籍の生徒は、ほぼ全員が韓国・朝鮮籍、いわゆる在日コリアンと言われる人たちという時代があった。〈資料3〉を見てもらうと、在日韓国・朝鮮人の生徒が減り、代わって中国人の生徒が増えてきているのを見て取れる。これは、戦後の混乱期に学校へ行けなかったという在日韓国・朝鮮人の生徒が高齢になって、通学できなくなっている一方、中国国内ではできない豊かな生活にあこ

がれて、日本人と結婚して在留許可を取得する方が増えてきていることに依る。

また、外国籍生徒の出身国が東南アジアと南米に偏っているのは、東南アジアから日本に出稼ぎに来て結婚、在留するケースが多いことと、90年あたりのバブルの頃、労働力が不足して、日系人の3世までに労働許可を与えるよう入管法が改正されたことで来日する方が増えたことに依る。

今後の課題としては、個々の学力に大きな差がある生徒に、計画的に学習指導を進めていくための指導計画、指導資料の整備をさらに進めていく必要があること、入学資格がありながら夜間学級の存在を知らない方がいるため、広報活動を充実させていくこと、生徒の学習環境を整備していくこと、などが挙げられる。

### 3. 平成20年度PT案の影響

平成20年夏、橋下徹大阪府知事は、1100億円の財政支出削減を掲げてプロジェクトチーム案（PT案）を発表した。その中で、夜間学級については、就学奨励費を平成20年度に10%削減、平成21年度には廃止の方針を打ち出した。

法令上は、就学奨励制度の対象となるのは学齢生徒と定められているので、学齢を超えている夜間学級の生徒は対象外ということになる。しかしながら、高齢で収入が限られていたり、外国籍であるため低賃金で過酷な労働を強いられていることが多い夜間学級の生徒の多くにとっては、これは通学不可能を意味する。実際、この時に「先生、来年私はもう来られへんわ。」と言っていた生徒がいた。

岸和田市より南には夜間学級はないので、北は高石市から南は阪南市まで広域から生徒は通っている。阪南市からの場合、バスの定期代が高く、月に2万数千円かかる。これを自己負担して通学することは困難であろうと思われる。

結局、就学奨励費は通学費のみ府が半額負担することになり、残りの通学用品費、学用品費、校外活動費については、廃止されてしまったが、平成21年度からは生徒の居住する市がこれらの費用を負担する制度の整備を行ったため、結果的には前年度と同様の補助が受けられることになったのは喜ばしいことである。

しかし、昭和48年から長年にわたって続けられてきた補食（給食）が支出削減のため、廃止されてしまったのは生徒に少なからず影響を与えている。

学校からは、弁当や軽食を用意してきて休憩時間に食べるよう連絡をしたが、何らかの食事を持参している生徒は約半数に留まり、残る半数は何も食べずに休憩時間を過ごしている。また、食べない生徒には外国籍の生徒が多い傾向が見られる。

### 4. 在籍者について

★平成21年度入学者

入学者数 10名

内 訳

日本国籍 4名、中国籍 4名、ブラジル籍 2名

この内訳を見ても、全体の約半数が日本国籍、残る半数のうち約半数が中国籍の生徒という全体と同じ傾向が見て取れる。この中から、日本国籍、中国籍、ブラジル籍各1名ずつ夜間学級へ入学するまでの経緯を紹介する。

#### ① Tさんの場合

日本国籍、女性、67歳。父親は戦死、母親が働いて生活を支えていた。中学校1年生に入学はしたが、学習についていけず、休みがちになった。5月の連休の頃、連休になっていることを知らなかったのも、近所の生徒がしょっちゅう休みになっているのを不思議に思っていたことを覚えている。

家事を自分がすれば、母親としては好都合だったのか、登校を強く促されることはなかったが、小学生の弟に学校に行っていないことでバカにされ、たびたび衝突するのはつらかった。そのまま引きこもってしまったが、学校の先生が家に来ることは一度もなかった。

#### ② Wさんの場合

中国籍、女性、23歳。幼い頃、両親が離婚したため、母親の実家に引き取られる。貧しい農家だったので、小学校卒業後、中学校へは行けなかった。母親の姉が日本に嫁ぎ、その縁で日本人と結婚したが、昨年DVにより離婚。在留許可はあと2年と少しになっている。

#### ③ Oさんの場合

ブラジル籍、女性、39歳。14年前に来日、娘に発達の遅れがあり、その学習を手助けしたいと夜間学級に。以前から夜間学級の存在は知っていたが、夫が夜から仕事に出かけるため、自分が夜間学級に通えば、娘一人を家に残すことになってしまうので、これまで入学できなかった。ようやく娘が、大きくなってきたので、入学することにした。

### 5. 最後に

学習というのは、学校においてのみするものではなく、生涯を通じてするものであるという、生涯学習の観点が見られるようになってからずいぶんになる。その観点からすれば、夜間学級はひとつのモデルケースになるのか、新聞や広報誌からの取材の申し込みを受けることが多くなった。

学びたいという希望を持って様々な事情を抱えながら、学習に励む生徒の姿を見ていると、教育の原点がここにはあるのでは、と思う。

今回、教育関係の方々に夜間学級について知っていただき、考えていただく機会を得られたのは大変意義深く、ありがたいことであった。関係の方々に感謝を

申し上げる。

## 6. 資料

### 〈資料1〉

#### ★学校の概要

1. 名 称 岸和田市立岸城中学校夜間学級
2. 所在地 岸和田市野田町2丁目19番19号
3. 電 話 072-438-6553  
(FAX 072-438-6553)
4. 在籍生徒数(平成21年5月1日現在)  
男子 11名、女子 42名、計 53名
5. 卒業生総数  
(自 昭和29年3月 至 平成21年3月)  
男子 126名、女子 307名、計 433名
6. 学校創立記念日 4月22日

#### ★学校の沿革

- |       |     |                                  |
|-------|-----|----------------------------------|
| 昭和28年 | 4月  | 岸城中学校補導学級として発足                   |
| 昭和44年 | 5月  | 大阪府教育委員会認可 岸城中学校<br>夜間学級         |
| 昭和47年 | 4月  | 夜間学級専任教員1名配置される<br>(1学級)         |
|       | 9月  | 夜間学級専任教員2名となる                    |
| 昭和48年 | 4月  | 夜間学級として3学級認可、専任教<br>員4名配置される     |
|       | 4月  | 補食給食開始される                        |
| 昭和49年 | 4月  | 夜間学級専任教員5名配置。夜間学<br>級主事1名、計6名となる |
|       | 9月  | 中庭に夜間照明設備される                     |
| 昭和50年 | 4月  | 夜間学級として4学級認可される。<br>専任教員7名となる    |
| 昭和55年 | 4月  | 5学級認可され、専任教員8名とな<br>る            |
| 昭和56年 | 5月  | 夜間専任教頭配置され(教頭制) 専<br>任教員9名となる    |
|       | 10月 | 夜間専任養護助教諭配置され、専任<br>10名となる       |
| 昭和59年 | 9月  | 夜間専用教室配置される                      |
| 昭和60年 | 4月  | 夜間専任養護助教諭配置される                   |
| 昭和62年 | 4月  | 4学級認可となる                         |
| 昭和63年 | 4月  | 5学級認可となる                         |
| 平成元年  | 8月  | 階段の手すりが設置される                     |
| 平成2年  | 8月  | 2教室分の照明が全面改善される                  |
| 平成3年  | 4月  | 外国人加配1名配置され専任教員11<br>名となる        |
|       | 8月  | 窓サッシの取り替えと照明が改善さ<br>れる           |
| 平成4年  | 8月  | 4教室分の床、改修される                     |
| 平成6年  | 4月  | 夜間専任校務員配置される                     |
|       | 4月  | 補食給食にフルーツ(週1)追加さ<br>れる           |
|       | 8月  | 1教室分の床、全面改修される                   |

- |       |     |                                  |
|-------|-----|----------------------------------|
| 平成7年  | 12月 | 夜間生徒通路に、水銀照明灯設置さ<br>れる           |
| 平成8年  | 3月  | 夜間生徒通路が、全面舗装される                  |
| 平成9年  | 4月  | 4学級認可、専任教員8、養教1、<br>校務員1、計10名となる |
| 平成11年 | 4月  | 専任教員2名減の6、養教1、校務<br>員1、計8名となる    |
| 平成15年 | 10月 | 50周年記念式典挙行                       |
| 平成20年 | 8月  | トイレに手すりが設置される                    |
| 平成21年 | 4月  | 補食給食が廃止される                       |

### 〈資料2〉

#### ★岸城中学校夜間学級が開設された背景

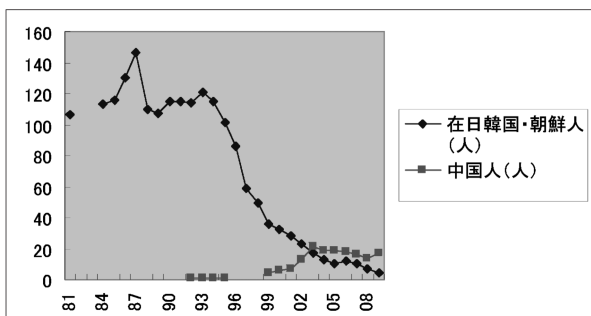
- 1947(S22)・「教育基本法」の制定、「学校教育法」が  
公布され、新制中学がスタート(この時  
期に長欠生が全国で100万人を越えた。)
- ・大阪市生野第二中学校(現勝山中学校)  
に、生徒数14名の夕間学級(暗くなるま  
で)が始められた。これが「夜間中学」  
の始まりと言われている。
- 1949(S24)・神戸市駒ヶ林中学校夜間学級開設。これ  
が「夜間中学」の始まりとも言われてい  
る。
- 1950(S25)・神戸市教育委員会が夜間学級を不就学対  
策学級として正式に認可。
- \*京都15校 大阪10校 奈良4校  
和歌山9校 兵庫22校  
計60校が近畿で開設された。
- ・府内平均の就学率 95.72%  
岸和田市の就学率 86.85%
- 1951(S26)・府内平均の就学率 97.29%  
岸和田市の就学率 91.65%
- 1953(S28)・岸城中学校「夜間補導学級」として発足  
し、従前の宿直時の不就学生指導の範囲  
をこえ、夜間における組織的指導が始ま  
る。
- \*岸和田市内の他の夜間補導学級設置校は  
春木、久米田、光陽。その後、岸城中学  
校1つに統廃合された。
- 1954(S29)・夜間のみ通学可能という生徒の実態によ  
り、この生徒たち・学級を独立させるほ  
うが良いという考え方で、この年に独立  
させ、第1回卒業生(28名)を送り出す。
- 1955(S30)・夜間中学の全国的ピーク時期(約84校  
5208人)
- 1966(S41)・行政管理庁が文部省等に対して、「夜間中  
学は学校教育法に定めのない学校だ」と  
して夜間中学の早期廃止勧告を出す。
- \*全国で21校416人となる。近畿は60校中58  
校が廃止された。
- 1967(S42)・夜間中学増設運動始まる。ドキュメンタ  
リ映画「夜間中学生」巡回
- 1968(S43)・東京荒川九中二部(夜間)卒業生高野雅夫

- 氏が中心となって大阪で運動を始めた。
- 1969(S44)・岸城で、2名の生徒の卒業(1968年度末)
- 後は、在校生が0になるため、16年間の夜間中学の灯が消えかける。
- ・5月、府教委が府議会の同意を得て、岸和田市立岸城中学校夜間学級として、正式認可
  - ・閉鎖寸前の岸城夜間中学の存続が決まった。

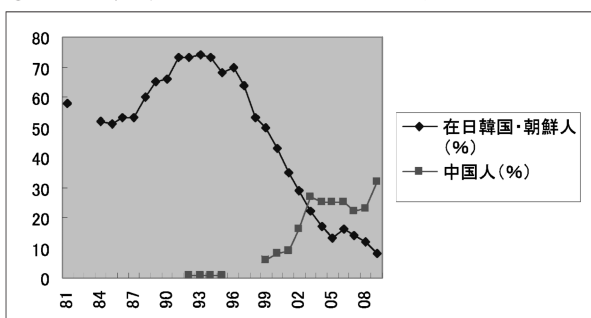
### 〈資料3〉

#### ★韓国・朝鮮人および中国人生徒の推移

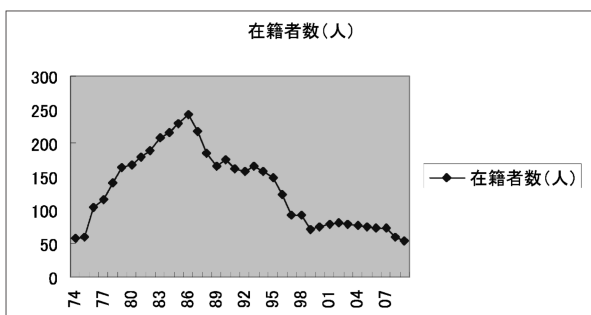
##### ①在籍人数（実数）



##### ②在籍比率（在籍者全体に占める割合）



##### ③在籍者数



### 〈資料4〉

#### 【日課表】

	時 程	内 容
会議・研修・準備	0:30～	職員会議、職員合同作業、校内研修、教材研究、家庭訪問、特別指導等
職員連絡会	2:30～	職員打ち合わせ
初めの会	5:20～	各学級ごとに健康観察・諸連絡等
第1時限	5:30～6:10	授業(40分)
第2時限	6:10～6:50	授業(40分)
食事・休憩	6:50～7:10	学級活動
第3時限	7:10～7:50	授業(40分)
第4時限	7:50～8:30	授業(40分)
終わりの会	8:30～	各学級ごとに最終点検(戸締まり)・諸連絡等
最終下校	9:15	

#### 【学級・担任・生徒数】

年 組	1-1	2-1	3-1	1-2	合 計
男 子	0	2	4	5	11
女 子	5	4	17	16	42
計	5	6	21	21	53

#### 【職員構成】

	兼任	専任			非常勤 若特嘱	非常勤 講 師	校務員	合 計
	校長	教頭	教諭	養教				
男子	1	1	4		1	1	1	9
女子			1	1	1	5		8
合計	1	1	5	1	2	6	1	17

#### 【教育課程】

教科 学年	国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 体	技 術	英 語	学 活	選 択	週時数 計	年総時数 計
1	8	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	20	700
2	8	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	20	700
3	5	2	3	2	1	1	1	1	2	1	1	20	700

#### 【コース別生徒数】

コース	1	2	3	4	5	合 計
男 子	0	3	4	2	2	11
女 子	6	9	8	8	11	42
計	6	12	12	10	13	53

### 〈資料5〉

#### ★夜間学級の特徴

##### 1. 外国人が多い

- (1)歴史上の経緯から在日韓国・朝鮮人が多い。
- (2)中国からの引揚・帰国者や定住外国人が増加傾向にあり、多国籍化している。

##### 2. 高齢生徒が多い。



- (1)若い頃は、生活や仕事に追われ、学ぶ時間が取れなかった。
- (2)定年になり、やっと通学できるようになった。
- (3)息子の嫁がきて、家事等をしなくても良くなった。子どもや孫の世話がなくなった。
3. 女性の割合が多い。
4. 仕事や病気のため、欠席する生徒も多い。生徒の健康や安全に特に注意している。  
(定期的な血圧や体重測定など)
5. 国語（日本語）と数学、及び英語の4・5コースは、習熟度別編成、総合・選択は、生徒選択制の授業形態。
6. 生徒各自の生活の実態や場面に必要な知識や社会生活に役立つ技術を修得する。
7. 老眼鏡を用意し、教材は拡大コピーにより文字を大きくしている。
8. 階段に手すりを設置し、教室の照明を明るくしている。

#### ★学校へ行けなかった理由

1. 昼の学校では不登校（登校拒否）だった。
2. 子どもの頃、家族や自分が生きるため、畑や家の手伝い、子守りなどをしていた。
3. 家が貧乏で丁稚奉公に行かされた。
4. 親や本人が強制連行で連れて来られた。
5. 家族が多かったので兄弟、姉妹の世話をしなければならなかった。
6. 男女差別（女に教育はいらぬ）の昔の風潮と親の無理解。

#### ★入学動機

1. 不登校だったため、昼の中学校の卒業証書をもっていない。中学校卒業の資格をとって高校へ進学したい。
2. 中学校卒業の資格が無いので、調理、理美容等の国家試験が受けられない。中学校卒業の資格が欲しい。
3. 子どもの頃、学校に行っていないので、運動会や遠足の経験が無い。青春を取り戻したい。
4. 宅急便、隣組の回覧板、手紙なども一回一回子どもの所に持っていった。せめて、回覧板や市の広報が読めるようにしたい。
5. みんなの前で話すとき、全部ひらがなで書いて行って、後ろで会社の偉いさんが見ていて、顔が真っ赤になるほど恥ずかしかった。
6. 子どもには字を知らないと馬鹿にされるので、勉強の時「自分でせい」とごまかした。「よそのお母さんは教えてくれるのに。」と言われたとき、涙が出た。
7. 学校の参観に行ったとき、手がふるえて何も書けず、受付の先生の前でとても恥ずかしい思いをした。
8. 電車の切符が買えないので、外出したくても電車

には乗りたくなかった。

9. 病院で申込書が書けず、専門の診察の科も分からず、なさけなかった。
10. みんな持っている「字」を持って死にたい。
11. 市役所、病院、銀行などの受付のある所に行かなければならない時は、右手に包帯をまいて行き「書けないので書いて」と頼んだ。
12. 視力検査の時、見えたのに、読めないで見えないと言った。
13. 文字が読めないので、看板や案内や注意書きの意味がわからないので恥をかいったり、危険な思いもした。
14. 買い物の時、おつりや金額がさっぱりわからない。  
(せめて計算できるようになりたい)
15. 一人であちこち行けず、子どもや兄弟について行ってもらうので肩身が狭い。
16. 自分の思っていること、子どもや孫に言っておきたいことを書きたい。
17. 胸に詰まっていることを吐き出して書いてみたい。

#### 〈資料6〉

##### ★夜間学級Q&A

1. どんなことを勉強しているのですか。  
夜間学級は、中学校の勉強（国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、保健体育、技術・家庭）も行う学校なので、高校に行きたい生徒は受験勉強もがんばっています。

また、夜間学級は、識字目的ではありませんが、初めて勉強を始める生徒もいますので「あいうえお」から勉強をしている人もいます。

2. 何時頃から何時頃まで勉強していますか。  
1日4時間で午後5時30分から8時30分まで勉強しています。

3. 何曜日に授業をやっているのですか。  
昼の学校と同じように、月曜日から金曜日まで。

4. 一番最初に習うのは何ですか。  
はじめて鉛筆を持つ人は鉛筆の持ち方から。若い頃、学校を途中でやめた人は、その学年をめやすに（たとえば、小学校5年でやめた人はその学年からの勉強）習い始めます。

5. 字を習って初めて書けた気持ちは  
長い間、悔しい思いをしていたので、涙が止まらない感動とうれしくてたまらない気持ちです。早く何かを書きたいという生徒もおれば、「今が青春だ」を実感している生徒もいます。

6. 字がわからなくて不便だったことは  
・「宅急便を送って」と頼まれても宛先が書けなかった。  
・回覧板や市の広報が読めない。  
・手紙が書けない。  
・子どもや孫に「字を教えて」と聞かれても答えられなかった。「よそのお母さんは教えてくれるのに」と

言われたとき涙が出た。

- ・学校の参観日に行ったとき、受付の先生の前でとても恥ずかしい思いをした。
- ・看板や案内、注意書きが読めず、意味がわからなくて恥ずかしい思いをしたり、危険なこともあった。

7. 夜間の学校は楽しいですか。

北は高石市から、南は岬町までの人がみんな仲良く、楽しい学校生活をおくっています。生徒会行事の料理集会では、朝鮮料理などもします。

8. どんなふうに教えるのですか。

年にとって老眼の生徒もいますので、プリントは拡大コピーを使って見やすくして教えています。また、日常生活で実際に困っている事を、学習内容に多く取り入れています。

9. 学校と言うのであれば、運動会はあるのですか。

夜間学級は正式な義務教育を行う学校です。従って、昼の学校と同じように、運動会や一泊校外学習、修学

旅行などの学校行事があります。

10. 年をとっても勉強できますか。

夜間学級には、10代の人から80代の人まで勉強しています。若い頃のように、すぐには頭に入らないけれど、コツコツと積み上げれば力がつきます。

11. 夜間学級を卒業して高校へ行けますか。

毎年何人かの生徒が、定時制高校へ進学しています。さらに、高校から夜間の大学へ進学した人もいます。

12. 費用はいくらぐらいかかりますか。

公立の中学校ですから、授業料はいりません。学校までの交通費、ノート、鉛筆などの文房具代などが必要です。収入に応じて経済的な援助を受けられる制度もあります。

#### 参考資料

『夜間学級開設50周年記念誌』岸和田市立岸城中学校夜間学級、  
2003年